

園だより 3月

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。
コリントの信徒への手紙Ⅲ 3章6節

年が明けてから寒波の襲来。日本各地では豪雪の被害が日々報じられていました。豪雪地域の方々の生活の安全を祈りながら、いつになったら春の穏やかな気候を感じられるかな、と既に関東地方に吹いた「春一番」に春の訪れを待ち遠しく思いながら過ごして来た2月でした。ここ1週間は温かな日々となりましたが・・・。

3学期に入り、年少組、年中組は食育の活動を楽しみました。年中組は恒例のお味噌作りです。みんなで協力しなくては作れない、いくつもの工程を経て作られるお味噌。数人のグループに分かれ、一つの袋に入った大豆を潰すことから始まり麴や塩などと混ぜること、一人ひとりが個々で行うのではなくみんなが協力をしながらの経験でした。自分のやりたい気持ち、お友だちのやりたい気持ち、様々な心もちに折り合いを付けながら、「こうしたらいいんじゃない」「こんな風になったよ」「○○くんもやりたいって」「そろそろ交代だよ」などなど、年中組のこの時期ならではの声の掛け合いに、協同性の育みを感じました。みんなで協力したからこそのおいしいお味噌が今年も仕込まれました。次の日からは「今度の秋まで」という、長いスパンを楽しみに待っている年中組の子どもたちです。

年少組は大事に育てたかぶの葉っぱを使って、ケーキを作ったり、ふりかけを作ったり、プリンを作ったりと、子どもたちが「食べたい」「作りたい」と願ったものを自分たちで作って楽しみ、お弁当のときや、おやつとしていただきました。包丁で野菜を切るという初めての体験もしました。子どもたちは日常生活でのお家の方の様子をしっかりと見ており、保育者が注意深く見守る中、この時ぞとばかりにお家の方がされている包丁さばきを実践していました。そして、その様子を見ていた子どもたちも早速真似をしていました。お友だちの様子をずっと見続けている子どもたちもいました。また、包丁を使う事よりも、葉っぱをちぎることを楽しむ子どもたちもいました。備えられた環境の中で一人ひとりが「今やってみようと思うこと」に自ら取り組む体験となりました。その「自ら」心と体が動くこと、動くとき、が本当に大切なのだと思います。保育者たちは心と体が動くことを願い、想定しながら環境を整え、一人ひとりのそのときに思いを注いで共に大切に過ごしています。自分たちで作ったものは、日頃口にしない苦手なものであっても挑戦してみたり、「食べてみたら美味しかった」との感想になったりと、豊かな経験に繋がりました。1年間を経て育まれた3学期の今の子どもたちの姿です。

2週間も無い短い3月の日々も成長をし続ける子どもたちです。変わらないお支えを宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子